

平成28年熊本地震

4月14日及び16日、熊本地方で最大震度7を観測する地震があり、熊本県と大分県で被害が発生しました。特に被害の大きかった熊本県では、複数の市町において災害ボランティアセンターが立ち上がり、8月17日現在においても被災地・被災者を支援するためのボランティアの受け入れが行われています。

中国ブロックの社会福祉協議会は、御船町災害ボランティアセンターの運営支援に携わりました。4月28日から7月1日の間、1クール5日間とし、全16クールで98名の職員を派遣しています。(内、広島市・区社協職員は15名)

御船町での主なボランティア活動の内容は、落ちた瓦や倒れたブロック塀などの集積場所までの運搬、屋内の家財の運び出しなどです。

天候や災害ゴミ集積場の都合から、ボランティアの受入を中止することもありましたが、それでも何か手伝いたいという思いのボランティアが災害ボランティアセンターに集まって来られました。

また、広島県社会福祉協議会主催でボランティアバスの実施があり、本会においても、つながりのあるボランティアへ参加の呼びかけを行いました。

長期にわたる支援活動が予測されるなか、被災地の情報収集を行いながら、被災地の復旧・復興の応援をしていきたいと思いをもちます。



【御船町災害ボランティアセンターの様子】

平成28年熊本地震ボランティアバス「ひろしまボラネット応援隊」参加者の感想

広島県社会福祉協議会主催のボランティアバス第2便(6月8日～6月10日)で熊本県御船町へ入り、被災者支援のボランティアとして活動しました。

私は、20名前後のグループリーダーとして活動しました。主な活動内容は、ハンマーを使ってのブロック塀の解体作業と解体したブロックをダンプに積み込みやすい場所まで運ぶ作業でした。私はメンバーが活動中に怪我をしないよう危険な場所を見極め、作業の指示をすることに専念しました。

受けもったニーズは、完了まで関わることができ、メンバーに怪我もなく、無事活動を終えることができました。

今回の活動を通じて、日頃からの個人ボランティアや団体ボランティアと顔見知りの関係を作っておくことが重要であると改めて感じました。ボランティアバスに参加するのは初めての経験でしたが、非常に良い経験をさせていただきました。

記：ボランティア情報センター 高路

平成26年8月20日の豪雨災害

8月20日で発災から2年を迎えました。

現在、安佐南区・安佐北区復興連携センターでは、被災者同士の集う場(サロン、カフェ)の支援、他都市からの視察受入や講演などの活動を行っています。



【色鉛筆作家の小林忠弘さん】

絵画展 色鉛筆作家である小林忠弘氏が、豪雨災害で被災した地域の風景や復旧・復興支援の様子を描かれた作品展を開催しました。

小林氏は幼少期を広島市で過ごされており、愛着のある広島で起こった豪雨災害と復興のために全国から集まったボランティアの活動の様子を記憶にとどめるために絵を描かれ、作品展を発案されました。

安佐南区総合福祉センターと安佐北区総合福祉センターを会場として、1週間ずつ展示し、連日たくさんの方が来場されました。

- ・8月18日～24日 安佐南区総合福祉センター
- ・8月25日～31日 安佐北区総合福祉センター

広島県災害復興支援士業連絡会の無料相談会

8月28日(日)、安佐南区と安佐北区総合福祉センターを会場に、豪雨災害で被災された方を対象として無料の相談会が開催されました。

1日だけの開催でしたが、それぞれの専門性を活かして、被災者の相談に応じられました。

広島県災害復興支援士業連絡会の加盟団体

弁護士会、司法書士会、税理士会、社会保険労務士会、土地家屋調査士会、行政書士会、技術士会、建築士会、社会福祉士会、介護福祉士会、精神保健福祉士会、法テラス広島

平成28年度 広島市学生ボランティア活動 サポート会議

平成28年7月11日(月)に広島市社会福祉センターを会場に、広島市学生ボランティア活動サポート会議を開催しました。この会議は平成26年度から年1回開催しています。今年は、市内9大学から11名、8区社協から14名、オブザーバーとして県社協から1名の参加がありました。



【取り組み事例発表の様子】



【グループワークの様子】

3回目となる今回は、実際に大学と区社協が連携している取り組み事例について、東区社協及び佐伯区社協より発表いただき、その後グループワークを通して大学と区社協の連携について意見交換を行いました。

この会議は、広島市域の区社協と大学が、顔の見える関係づくりを行い、学生ボランティア活動の活性化と円滑化を図ることを目的に行っています。今後も引き続き、大学と区社協が意見交換をすることで、学生が安心してボランティア活動に参加できる仕組みを作りたいと思いをもちます。

引越イベント! ボラセン感謝祭

～ありがとう千田町の福祉センター～ 開催!

昭和57年から広島市域を活動範囲とするボランティアグループ、NPO、障害当事者団体及びその家族の会などで構成する「広島市ボランティア情報センター利用者連絡会(略称「利用連」といいます)」は、広島市社会福祉センター(中区千田町)を活動拠点としてきました。結成当初は32グループでしたが、現在113グループの登録があります。

今年12月に広島市社会福祉センターは南区松原町へ移転することになりました。そこで、利用連の有志が中心となって、これまで拠点としてきた広島市社会福祉センターへの感謝と新しいつながりづくりのために、引越イベントを計画されました。

当日、約150名の参加があり、ステージを見て楽しめる方、福祉体験コーナーで、改めて点訳方法や手話などを学ばれる方、喫茶コーナーで昔を懐かしみながらお話しされる方など、新しいつながりの場、歴史を振り返る場となりました。

イベント開催までの1年間、実行委員として関わってこられた皆さま、本当にお疲れ様でした!

新しい広島市総合福祉センターへの移転は、ワクワク、ドキドキしますが、今後も利用連の皆さまとのつながりを大切にし、新たな一歩を踏み出したいと思います。



【ステージ発表の様子】